

# 令和7年度

## 雨水しみこみプロジェクトに係る メディアツアー実施記録

都では、近年の気候変動の影響により激甚化・頻発化する豪雨災害に対応するため、令和5年12月に「東京都豪雨対策基本方針」を改定しました。本方針では、豪雨対策として、河川や下水道の整備に加えて、流域対策や家づくり・まちづくり対策、避難を位置づけ、その中で「グリーンインフラ」の導入を進めていくこととしています。

グリーンインフラとは、自然環境が有する機能を社会課題の解決に活用しようとする考え方であり、緑地やレインガーデン（雨庭）を整備することは、景観の向上や生物多様性の保全等の日常の豊かさだけでなく、雨水流出抑制にも資する取組であり豪雨対策にもつながります。

都では、特に雨水の流出抑制に活用する取組を「あまみずグリーンインフラ」として整備を進めています。また、グリーンインフラの認知度を高め、主体的な取組を増やしていくため、都民や事業者に対する情報発信を強化しています。

この度、各種メディアに「あまみずグリーンインフラ」に関心をもってもらい、積極的に情報発信して頂くため、専門知識を学ぶとともに取組事例を取材頂くメディアツアーを実施しましたので、その内容をご紹介します。

- 名称 グリーンインフラ メディアツアー
- 日時 令和7年11月26日（水） 09：00～12：30
- 視察場所 ①大島小松川公園（江東区・江戸川区）  
②番町の森（千代田区）  
③道路の雨水流出抑制モデル施設【大井町駅西口駅前】（品川区）
- ツアー内容 ①都内に設置された「あまみずグリーンインフラ」施設の視察  
・視察先では、東京都設置事業者からの説明とそれに対する質疑応答  
②専門家（学識者等）、都担当職員によるグリーンインフラの意義、都の取組状況等についての説明とそれに対する質疑応答

### 【問合せ先】

都市整備局 都市基盤部 施設計画担当

電話：03-5388-3386（内線：30-422）

メール：[S0000177@section.metro.tokyo.jp](mailto:S0000177@section.metro.tokyo.jp)

# 視察施設① 大島小松川公園

## 施設概要

大島小松川公園（江東区・江戸川区）

荒川の流域にあるこの地域は水害に関する住民の意識関心がとても高い地域です。公園中央の広場から周辺道路に向けた傾斜を利用して集水しており、公園の敷地からの雨水流出を抑制する手法の一つです。

小松川公園にはレインガーデン（雨庭）が3か所、バイオスウェル（緑溝）が2か所の合計5か所が設置されています。今回のツアーではその内の3か所を訪れました。

「都市型水害の軽減に寄与している。暑熱緩和やカ緑化による景観の改善といった効果も期待できる」

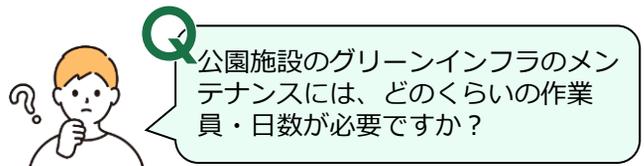
整備者：(株)日比谷アメニス  
管理者：東京都都市整備局

施設規模：

レインガーデン（雨庭） 48㎡（集水範囲は90㎡）  
バイオスウェル（緑溝） 延長15m

施工年月日：令和6年9月（※検証施設）

設置施設：レインガーデン3か所  
バイオスウェル2か所



**A** 3名で5箇所の施設を1日がかかりで月1回メンテナンスを実施しています。また、これ以外に落ち葉があったり汚れたりした場合は都度メンテナンスを行っています。（株）日比谷アメニス



レインガーデン 1

▲このレインガーデンでは、貯まった雨水の水位を示すために、石の高さを5cmずつ変えて配置しています。見た目は石庭のようで、公園のアクセントになっています。



バイオスウェル 2

▲バイオスウェルは帯状に掘られた溝で、砂利が敷き詰められています。既存の排水溝と接続することで、効率的に雨水を浸透させることが可能です。



レインガーデン 3

▲このレインガーデンでは、1時間に100ミリメートルの雨を想定して水を流し、効果を検証しています。また、在来種のムラサキシキブなどを植え、将来的にはビオトープになることを目指しています。近隣の方々や子どもたちと共に手入れを行い、自然環境や水の循環について学ぶ機会も提供しています。

## 専門家の紹介

東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科

福岡孝則 教授



米国公認登録ランドスケープアーキテクト。  
1974年神奈川県生まれ。ペンシルバニア大学芸術系大学院ランドスケープ専攻修了後、米国Hargreaves Associates, Gustafson Guthrie Nichol Ltdを経てドイツAtelier Dreiseitl GmbH(現Ramboll Studio Dreiseitl)のPMとして中東やアジアの持続的都市・環境デザインプロジェクトを担当。「コートヤードHIROO」で2015年度グッドデザイン賞受賞。あまみずグリーンインフラ検討委員会委員、国土交通省グリーンインフラ官民連携プラットフォーム企画広報部会長、(一社)ランドスケープアーキテクト連盟 副会長も務める。

## 福岡先生からのコメント

「自然と共生する社会づくり」を実現するための方法一つに、グリーンインフラを活かしたまちづくりという視点があります。

庭や公園など身の回りの小さな「水」や「みどり」などの再生・創出から、まちづくりに取り組んでみませんか。

## 視察施設② 番町の森

### 施設概要

千代田区「番町の森」

日本テレビ放送網(株)の所有する地域に開かれた広場の中にレインガーデンを設置しました。様々な人が気軽に集えるインクルーシブでオープンな広場として親しまれていましたが、一部では排水性に課題があり、常時湿った状態になり利用しにくいエリアもありました。

計画にあたっては、子供たちや地域のコミュニティスペースとして、日常的に活用できるデザインでありながら、水災被害を緩和するための「排水性」を強化した整備を行いました。

整備者：(株)日比谷アメニス

管理者：日本テレビ放送網(株)

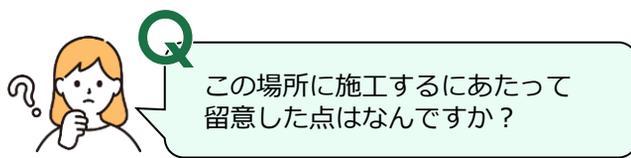
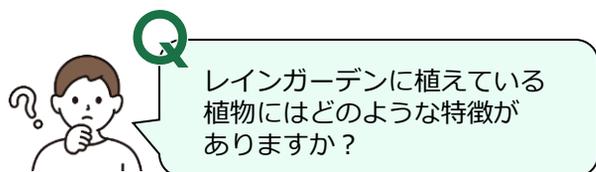
設置日：令和7年9月

所在地：東京都千代田区二番町14

設置施設：レインガーデン2か所



(c)OpenStreetMap Contributors CC-BY-SA.2.0  
<https://www.openstreetmap.org/#map=18/35.687117/139.737371&layers=V>



民間空地における豊富な緑化によるCO2の削減や環境・生物多様性の保全等、地域と共生するサステナブルな広場をコンセプトにデザインされており、様々な人が気軽に集えるインクルーシブでオープンな広場です。

ゆったりとくつろげるベンチ、子供たちが思いっきり駆け回れる芝生広場を配し、災害時には一時避難場所としてもご活用いただけます。近くの幼稚園・保育園から訪れる子供たちも多く、気軽に集える広場です。園内にはレインガーデンが2か所設置されています。



# 視察施設③ 大井町駅西口駅前（道路の雨水流出抑制モデル施設）

## 施設概要

品川区大井町駅西口駅前広場

大井町駅西口駅前の交通島に設置した雨水流出抑制モデル施設です。こちらは、近年増え続ける豪雨災害への対応策としてグリーンインフラの普及啓発するため、「雨水貯留浸透型ブロック」を設置し、雨水の貯留・浸透機能を有した雨水貯留浸透舗装の整備を行っています。

## 特徴

- ・ 雨水を速やかに排水する構造
- ・ 雨水をゆっくり浸透させる広域構造
- ・ 雨水をしっかり貯留する空洞部

整備者：日本興業(株)

管理者：日本興業(株)

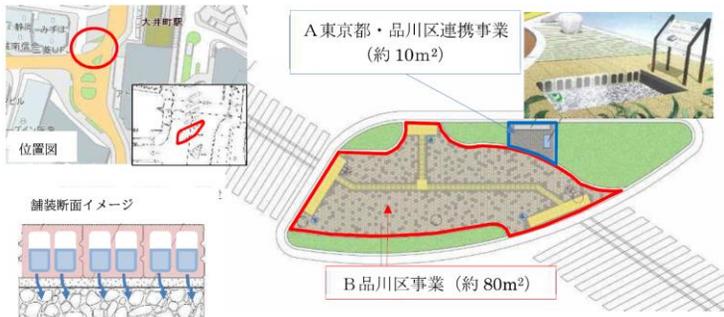
設置日：令和7年11月

所在地：品川区大井1丁目

設置施設：雨水貯留浸透施設



(c)OpenStreetMap Contributors CC-BY-SA.2.0  
https://www.openstreetmap.org/#map=20/35.6870360/139.7366685&layers=V



「雨水貯留浸透型ブロック」の特徴を教えてください。

A

雨水をブロック内部の空洞部に一時貯留し、路盤へ浸透させるブロックです。路盤を含めると100mm/時間の雨でも水たまりが出来ない程の能力があります。（日本興業(株)）



施工性や価格は？

A

製品の厚みが16cmのため、通常より路盤を深く掘る必要があります。その他の施工は通常ブロックと同様です。価格は通常ブロックの約1.5倍です。（日本興業(株)）



路盤構成は？

A

16cmのブロックの下に3cmの敷き砂、透水シート、10cmの砕石です。（日本興業(株)）



施設の中央に開口部を設けているのはなぜですか？

A

ブロックの断面形状や雨水のしみこみ状況を視認できるようにあえて開口部を設けています。（日本興業(株)）



この施設は都民に分かりやすく雨水貯留浸透の仕組みを伝える工夫をしているのが特徴です。ブロックの側面を視認できるようにすることで、雨水が貯留・浸透している様子がうかがえ、直感的に雨水流出抑制の効果を理解できる構造となっています。施設としての機能に加え、環境意識の向上も期待できます。また、あわせて広報展開や効果検証も進めています。

